

平成 21 年 8 月 4 日

大臣官房 政策課

最近の気象状況について

- 1 5月以降の天候経過について P 1

- 2 今後の天候見通し
 - ① 全般1か月予報（8月1日から8月31日までの天候見通し） P 7
 - ② 全般3か月予報（8月から10月までの天候見通し） P 10

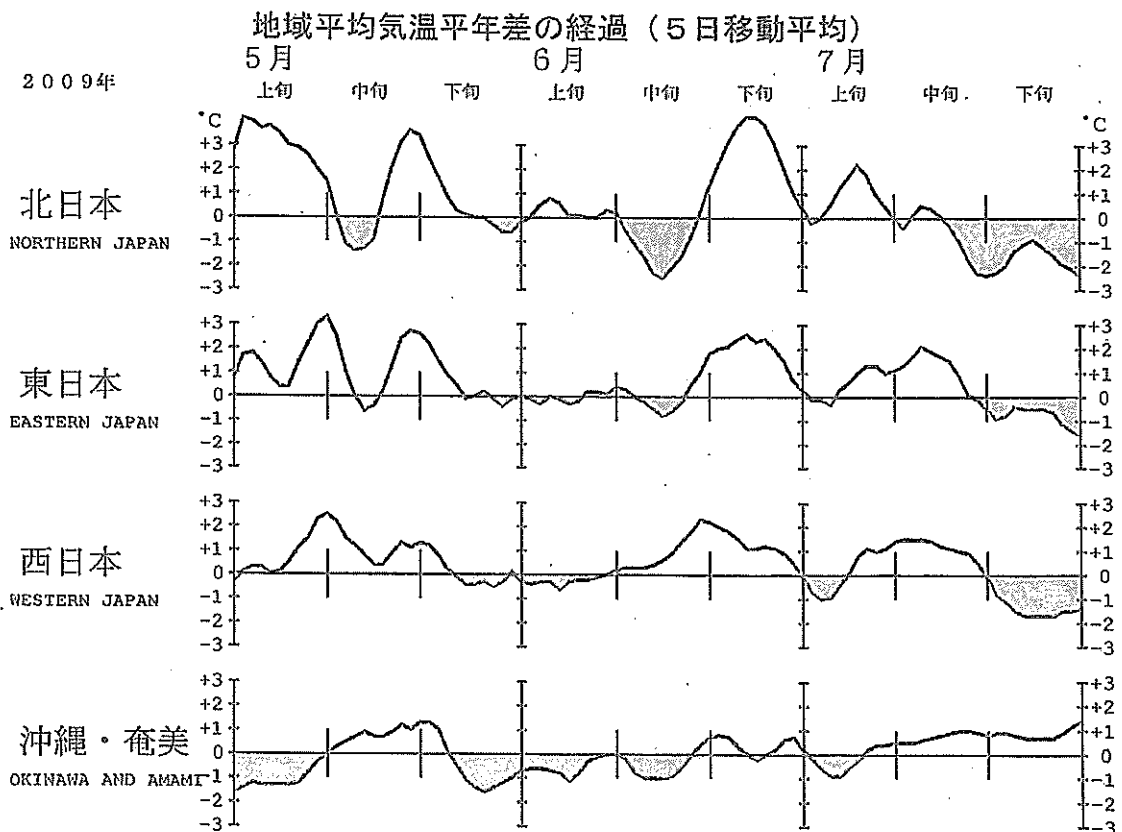
5月以降の天候経過について

特徴

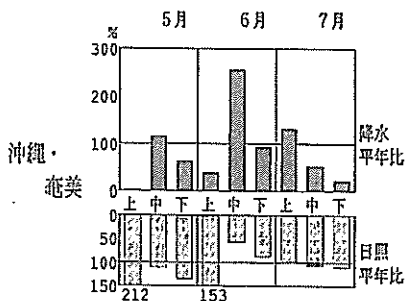
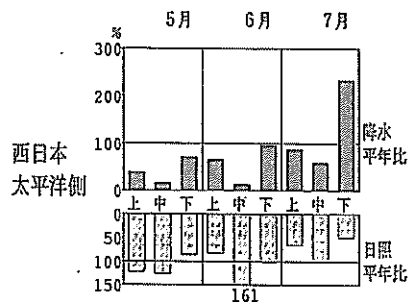
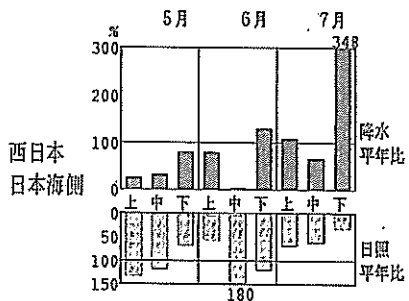
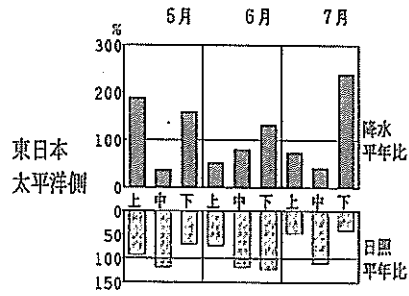
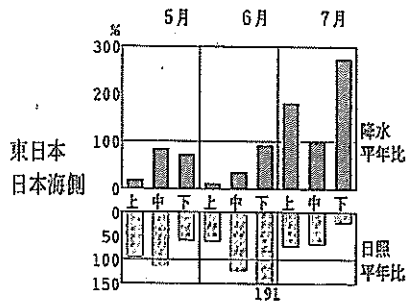
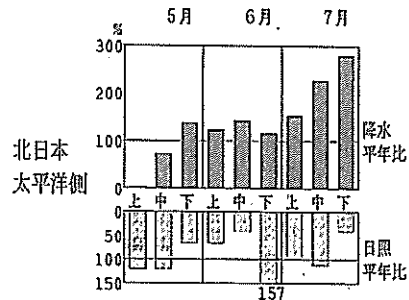
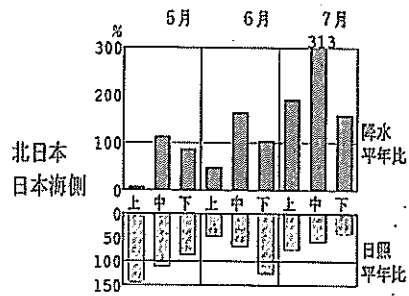
5月：少雨（東日本太平洋側を除いた全国）、顕著な高温（北日本、東日本）

6月：日照時間少ない（北日本）、少雨（東日本日本海側、西日本）と多雨（沖縄・奄美）、高温（北日本～西日本）

7月：多雨（北日本、東日本日本海側、西日本）、日照時間少ない（沖縄・奄美を除く全国）



旬降水量および旬間日照時間の地域平均平年比の時系列



図の上側 (■) が降水量 (単位: %)
 図の下側 (□) が日照時間 (単位: %)

5月

<特徴> 少雨（東日本太平洋側を除いた全国）、顕著な高温（北日本～東日本）

<概況> 上旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。中旬からは天気は周期的に変わったものの、低気圧は日本海を進むことが多くまた発達することも少なかったことから、東日本太平洋側を除いた全国で月降水量が少なかった。特に、西日本と東日本日本海側では月降水量はかなり少なく、西日本太平洋側は地域平均の統計をとり始めた1946年以降、5月としては最も少ない記録を更新した。なお、上旬と下旬には寒気を伴った低気圧が本州の南岸をゆっくりと進み、太平洋側では天気のぐずついた時期があり、東日本太平洋側での月降水量は多くなった。

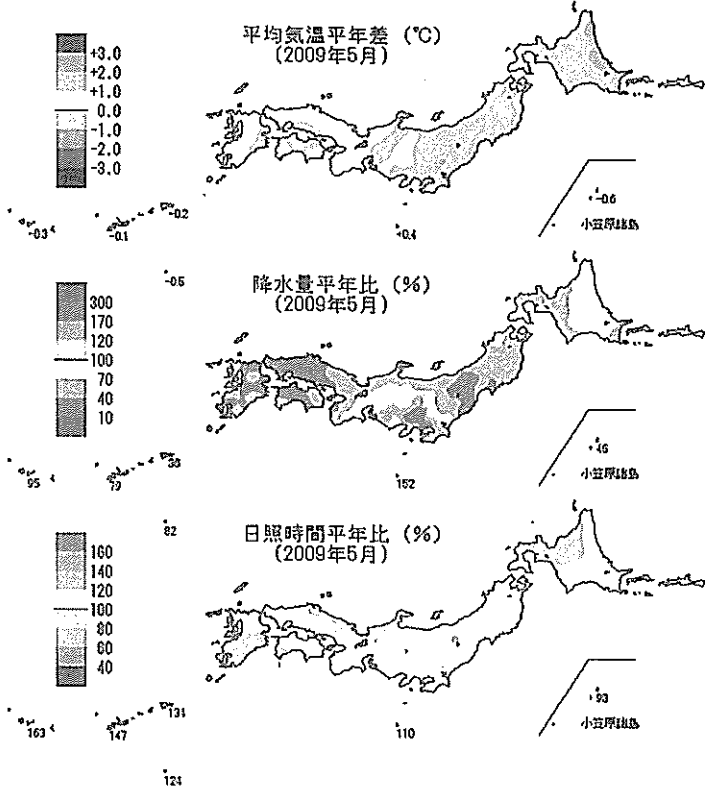
一方、沖縄・奄美では、月前半は高気圧に覆われたため、晴れて降水量の少ない状況が続いた。月後半からは前線の影響により曇りや雨の日が多くなり、沖縄地方と奄美地方では平年より遅い18日頃に梅雨入りした。

北日本から西日本にかけては、中旬の一時期を除き寒気の影響を受けにくく、気温は平年より高く経過した。特に、北日本と東日本の月平均気温はかなり高く、北日本は1946年以降で1970年、1956年と並び5月としては最も高い値となった。一方、沖縄・奄美では、上旬と下旬に寒気が流入したことから月平均気温は低くなった。

<平均気温> 北日本と東日本でかなり高く、西日本で高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。

<降水量> 東日本日本海側、西日本でかなり少なく、北日本、沖縄・奄美で少なかった。これらの地域では平年の40%未満となったところがあった。一方、東日本太平洋側では多かった。

<日照時間> 沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、東日本では少なく、北日本太平洋側と西日本日本海側では平年並だった。



6月

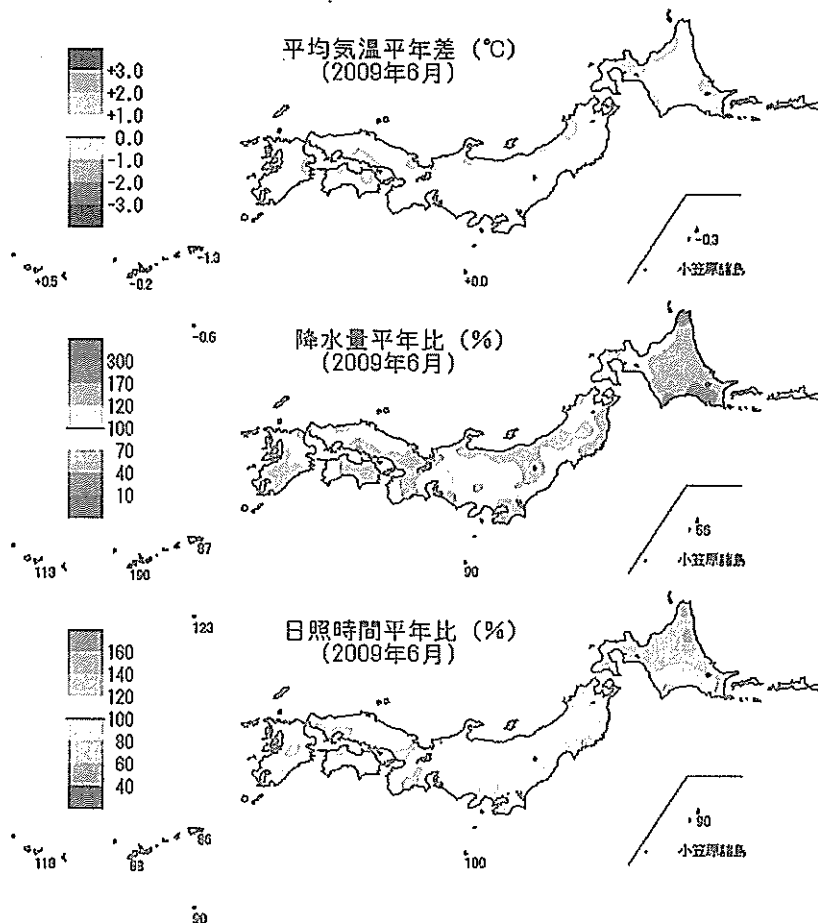
<特徴> 日照時間少ない(北日本)、少雨(東日本日本海側、西日本)と多雨(沖縄・奄美)、高温(北日本～西日本)

<概況> 北日本では、低気圧や気圧の谷の影響を受けることが多かったため、曇りや雨の日が多く、日照時間が少なかった。特に北日本日本海側ではかなり少なく、1946年の統計開始以来3番目に少ない記録となった。また、北日本太平洋側では多雨となった。日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が弱かったことから、梅雨前線は本州から離れた南海上に停滞することが多く、東日本日本海側や西日本では日照時間が多く、少雨となった。特に東日本日本海側と西日本太平洋側では顕著な少雨となった。一方、沖縄・奄美では、梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多く、多雨となった。気温は、上旬は西日本から沖縄・奄美にかけて、中旬は北日本と沖縄・奄美で、寒気の影響により低温となったが、下旬は本州付近は広く暖かい空気に覆われたため、北日本中心に顕著な高温となった。このため北日本から西日本にかけては、月平均気温が高かった。

<平均気温> 北日本から西日本にかけて高かった。沖縄・奄美では平年並だった。

<降水量> 北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。一方、東日本日本海側と西日本太平洋側ではかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。北日本日本海側と東日本太平洋側では平年並だった。

<日照時間> 東日本日本海側と西日本で多かった。一方、北日本日本海側ではかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。特に北海道では平年の80%未満となった地点が多かった。東日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。



7月

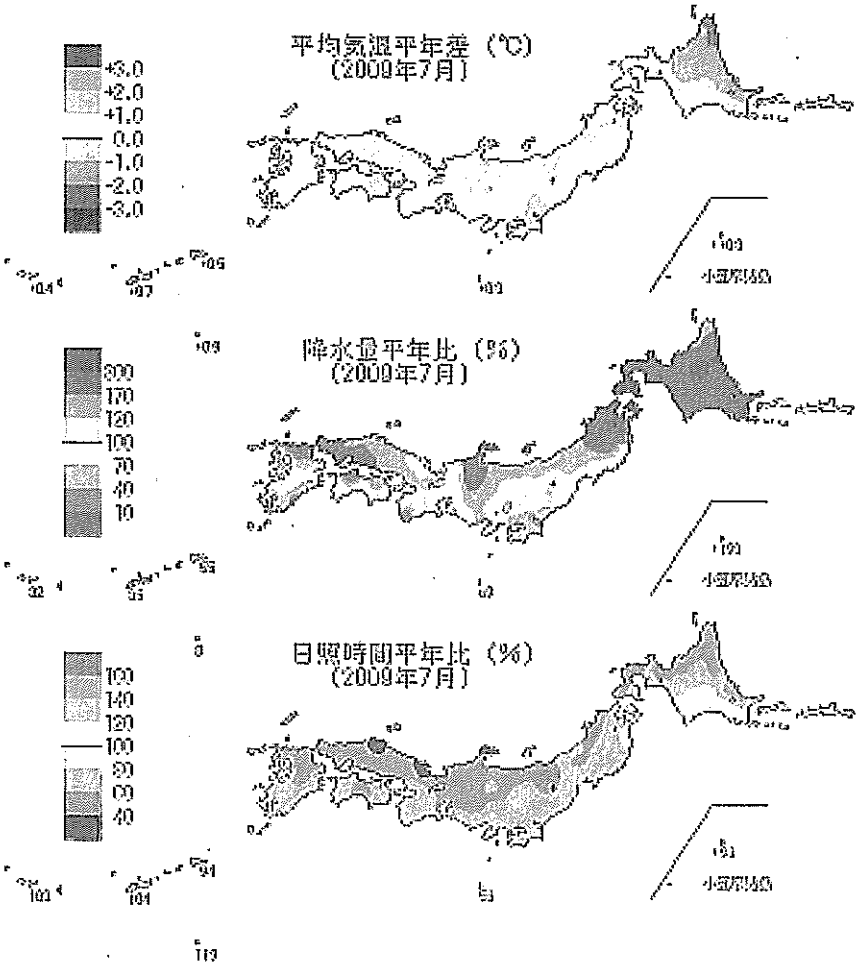
<特徴> 多雨(北日本、東日本日本海側、西日本)、日照時間少ない(沖縄・奄美を除く全国)

<概況> 7月には、梅雨前線が日本列島付近に停滞することが多く、また、低気圧の影響もあり、全国的に曇りや雨の日が多く、沖縄・奄美をのぞき、日照時間は少なくなっている。また、北日本では、しばしば低気圧が通り、北海道を中心に平年の2倍を越えるような降水量となっている。下旬には九州北部や中国地方を中心に大雨となっており、土砂災害等被害が広がっている。

<平均気温> 沖縄・奄美で高かった。一方、北日本では低く、北海道では平年を1℃以上下回ったところがあった。東日本と西日本では平年並だった。

<降水量> 北日本でかなり多く、東日本日本海側と西日本で多かった。これらの地域では平年の170%を上回ったところがあり、北海道では平年の300%を上回ったところもあった。一方、沖縄・奄美では少なく、東日本太平洋側では平年並みだった。

<日照時間> 北日本日本海側、東日本、西日本でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。特に北日本から西日本にかけての日本海側では、平年の60%未満となったところが多かった。一方、沖縄・奄美は平年並だった。



梅雨入りの状況（速報値）

地方	今年(平成20年)	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	5月18日ごろ	10日遅い	4日早い	5月8日ごろ	5月22日ごろ
奄美	5月18日ごろ	8日遅い	4日早い	5月10日ごろ	5月22日ごろ
九州南部	6月9日ごろ	11日遅い	12日遅い	5月29日ごろ	5月28日ごろ
九州北部	6月9日ごろ	4日遅い	12日遅い	6月5日ごろ	5月28日ごろ
四国	6月9日ごろ	5日遅い	12日遅い	6月4日ごろ	5月28日ごろ
中国	6月9日ごろ	3日遅い	12日遅い	6月6日ごろ	5月28日ごろ
近畿	6月9日ごろ	3日遅い	12日遅い	6月6日ごろ	5月28日ごろ
東海	6月9日ごろ	1日遅い	12日遅い	6月8日ごろ	5月28日ごろ
関東甲信	6月10日ごろ	2日遅い	12日遅い	6月8日ごろ	5月29日ごろ
北陸	6月10日ごろ	同じ	9日早い	6月10日ごろ	6月19日ごろ
東北南部	6月10日ごろ	同じ	12日早い	6月10日ごろ	6月22日ごろ
東北北部	6月11日ごろ	1日早い	12日早い	6月12日ごろ	6月23日ごろ

梅雨明けの状況（速報値）

地方	今年(平成20年)	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6月28日ごろ	5日遅い	11日遅い	6月23日ごろ	6月17日ごろ
奄美	7月5日ごろ	7日遅い	3日遅い	6月28日ごろ	7月2日ごろ
九州南部	7月12日ごろ	1日早い	6日遅い	7月13日ごろ	7月6日ごろ
九州北部	----	----	----	7月18日ごろ	7月6日ごろ
四国	7月31日ごろ	14日遅い	25日遅い	7月17日ごろ	7月6日ごろ
中国	----	----	----	7月20日ごろ	7月6日ごろ
近畿	8月3日ごろ	15日遅い	22日遅い	7月19日ごろ	7月12日ごろ
東海	8月3日ごろ	14日遅い	22日遅い	7月20日ごろ	7月12日ごろ
関東甲信	7月14日ごろ	6日早い	5日早い	7月20日ごろ	7月19日ごろ
北陸	----	----	----	7月22日ごろ	8月6日ごろ
東北南部	----	----	----	7月23日ごろ	8月6日ごろ
東北北部	----	----	----	7月27日ごろ	8月5日ごろ

全般 1か月予報

(8月1日から8月31日までの天候見通し)

平成21年7月31日
気象庁 地球環境・海洋部発表

<特に注意を要する事項>
北日本から西日本にかけては日照時間が少ない見込みです。沖縄・奄美では、期間の前半を中心に気温がかなり高くなるおそれがあります。

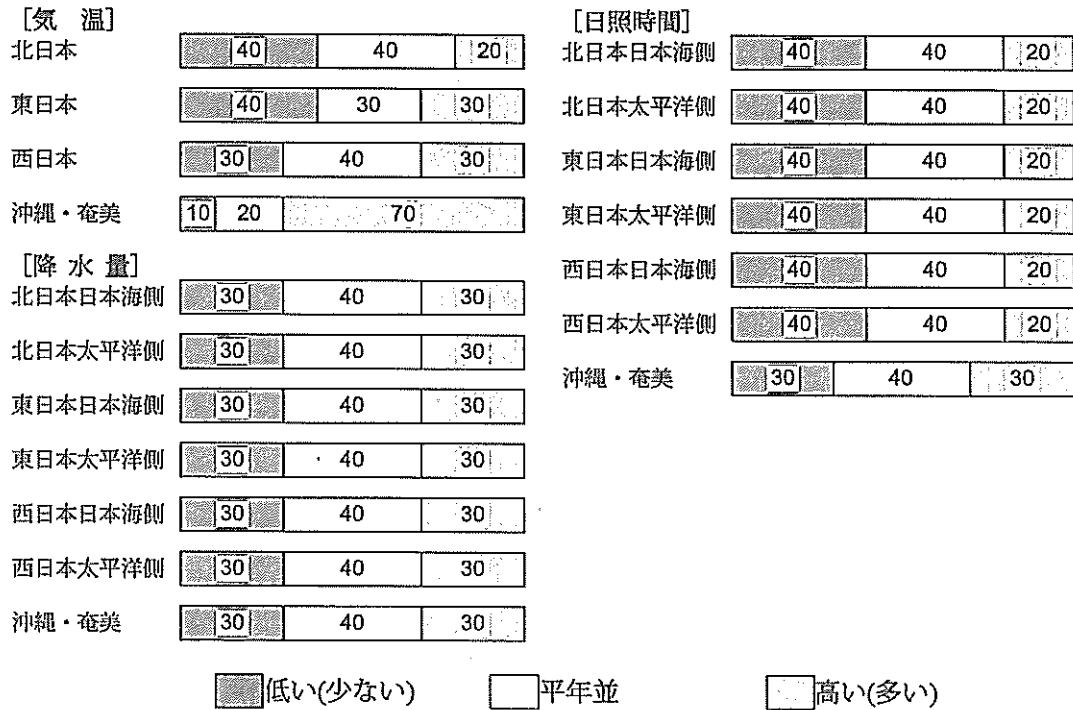
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
天気は北日本から西日本にかけては平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。沖縄・奄美で平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

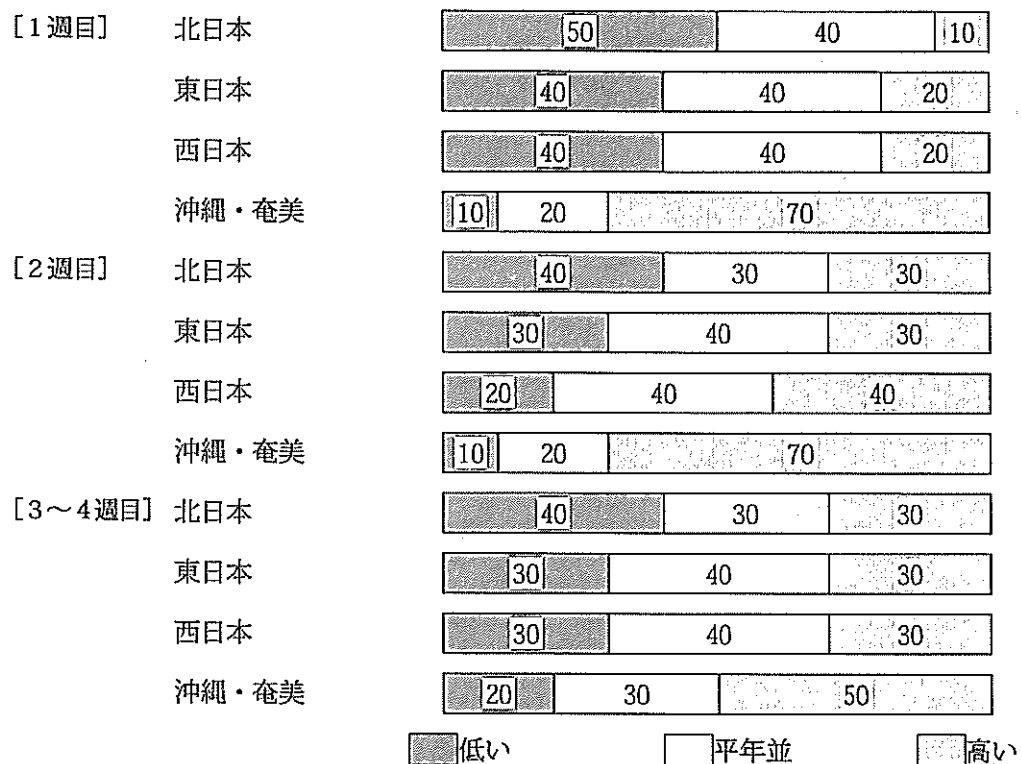
向こう1か月の平均気温は沖縄・奄美で高い確率70%、北日本で平年並または低い確率ともに40%です。日照時間は、北日本と東日本、西日本で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は沖縄・奄美で高い確率70%、北日本で低い確率50%、東日本と西日本で平年並または低い確率ともに40%です。2週目は沖縄・奄美で高い確率70%、西日本で平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、沖縄・奄美で高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率 (%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 8月 1日 (土) ~ 8月31日 (月)
 1週目 : 8月 1日 (土) ~ 8月 7日 (金)
 2週目 : 8月 8日 (土) ~ 8月14日 (金)
 3~4週目 : 8月15日 (土) ~ 8月28日 (金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は8月7日
 3か月予報: 8月25日 (火) 14時

<参考資料（平年並の範囲）>

（1）1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)		降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
北日本	-0.8～+0.6	日本海側	77～109	99～107
		太平洋側	77～113	89～110
東日本	-0.2～+0.3	日本海側	82～111	93～111
		太平洋側	72～118	95～108
西日本	-0.4～+0.4	日本海側	72～111	95～113
		太平洋側	74～101	93～109
沖縄・奄美	-0.2～+0.2		86～112	95～104

（2）この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
北日本	-0.8～+1.1	-0.9～+1.0	-0.4～+0.8
東日本	-0.3～+0.8	-0.3～+0.7	-0.2～+0.6
西日本	-0.4～+0.5	-0.5～+0.5	-0.3～+0.3
沖縄・奄美	-0.2～+0.2	-0.3～+0.2	-0.2～+0.2

<参考資料（利用上の注意）>

（1）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（2）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。

（3）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

全般 3か月予報

(8月から10月までの天候見通し)

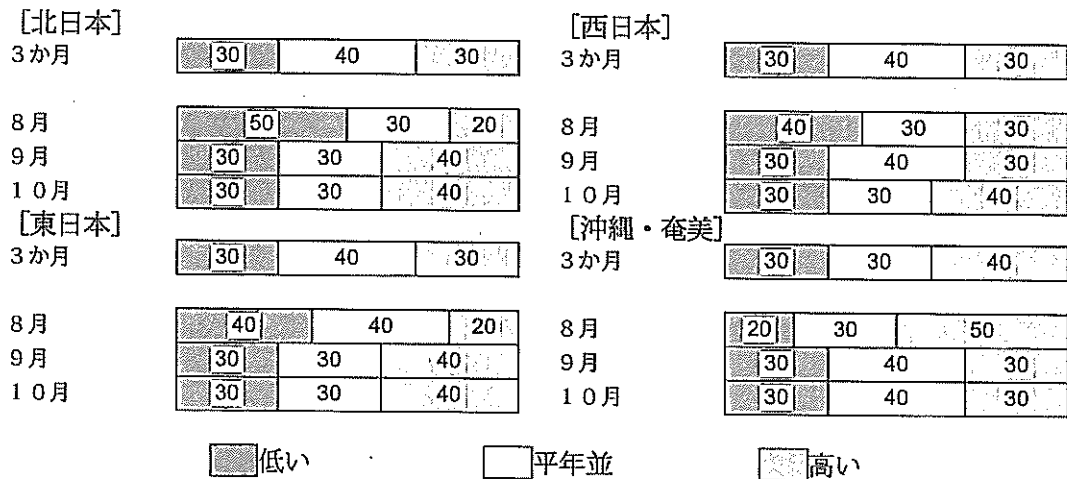
平成21年7月23日
気象庁 地球環境・海洋部発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
 8月 天気は、北日本と東日本、西日本では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。天気のごずつく時期がある見込みです。沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、北日本で低い確率50%、東日本で平年並または低い確率ともに40%、沖縄・奄美で高い確率50%です。
 9月 天気は、北日本と東日本、西日本では数日の周期で変わるでしょう。沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
 10月 天気は、北日本と東日本では数日の周期で変わるでしょう。西日本と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >

<<気温>>



<<降水量>>

[北日本日本海側]

3か月	30	40	30
8月	30	40	30
9月	30	40	30
10月	30	40	30

[西日本日本海側]

3か月	30	40	30
8月	30	40	30
9月	30	40	30
10月	30	40	30

[北日本太平洋側]

3か月	30	40	30
8月	30	40	30
9月	30	40	30
10月	30	40	30

[西日本太平洋側]

3か月	30	40	30
8月	30	40	30
9月	30	40	30
10月	30	40	30

[東日本日本海側]


3か月	40	30	30
8月	30	40	30
9月	40	30	30
10月	30	40	30


[沖縄・奄美]

3か月	40	30	30
8月	40	30	30
9月	30	40	30
10月	30	40	30

[東日本太平洋側]

3か月	40	30	30
8月	30	40	30
9月	40	30	30
10月	30	40	30

 少ない

 平年並

 多い

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月24日
3か月予報：8月25日(火) 14時

8月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

<参考資料（平年並の範囲）>

(1) 1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)
北日本	-0.4～+0.3	日本海側	92～101
		太平洋側	90～107
東日本	-0.2～+0.1	日本海側	88～108
		太平洋側	88～110
西日本	-0.3～+0.3	日本海側	87～107
		太平洋側	84～113
沖縄・奄美	-0.2～+0.0		87～106

(2) この予報期間の地域平均気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	8月	9月	10月
北日本	-0.8～+0.6	-0.3～+0.1	-0.5～+0.4
東日本	-0.2～+0.3	-0.5～+0.3	-0.5～+0.3
西日本	-0.4～+0.4	-0.4～+0.5	-0.4～+0.4
沖縄・奄美	-0.2～+0.2	-0.1～+0.2	-0.4～+0.2

(3) この予報期間の地域平均降水量平年比の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	8月	9月	10月
北日本日本海側	77～109	88～107	99～111
北日本太平洋側	77～113	90～111	78～110
東日本日本海側	82～111	80～117	91～109
東日本太平洋側	72～118	76～124	73～109
西日本日本海側	72～111	80～111	74～126
西日本太平洋側	74～101	74～114	77～104
沖縄・奄美	86～112	84～117	66～108

<参考資料（利用上の注意）>

(1) 気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。